学校番号	302

平成 31 年度　国語科

教科	国語科	科目	現代文Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高等学校　改訂版　現代文Ｂ 」　（第一学習社）						
副教材等	「練成現代文　大学入学共通テスト対策版」（尚文出版） 「現代文 キーワード読解 改訂版」（Ｚ会） 「新総合　図説国語」（東京書籍） 「テーマ別　漢字演習」（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

国語科では、社会に出てからも通用する「伝え合う力」の育成を目指しています。国語科で学ぶことは、全ての教科の基礎学力につながるだけでなく、自分らしく生きていく源となる力を育みます。実り多い学習となるよう、「授業」を大切にし、「予習」・「復習」はバランス良く主体的に取り組みましょう。「予習」では、辞書を活用して新出語句の意味調べや本文の音読、「復習」では学んだことを整理し、重要事項についてさらに調べて、どんどんノートに付け加えましょう。そのために、ノートはできるだけ行間にゆとりを持ち、授業中は級友の意見や授業者の口頭による説明も必要に応じてメモをとり、積極的に参加してください。また、定期考査は計画を立てて臨み、提出物の期限は厳守しましょう。

2　学習の到達目標

① 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。
② 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにする。
③ 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
④ 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	・国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	・目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取って自分の考えをまとめたり深めたりしている。 ・聞くときに、話題、話し手の意図、考えの進め方、強調点などをとらえ、必要なことを聞き取り、話し手に対し、確認したり質問したりしている。	・文章を書くねらいを達成するため、主張を明確にし、論点を整理して配列を考え、適切な語句を選ぶなど、表現に様々な工夫を凝らしたり、推敲を重ねたりしている。 ・優れた文章を分析、吟味するとき、発想の豊かさ、構成の着実さ、読み手を意識した適切な用語や引例などについて着目している。	・文章の組み立てを確かめたり、段落相互の関係を読み取ったり、さらには文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。	・文や文章の組み立て、語句の意味、常用漢字の読みや用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かに身につけている。

評価方法	・記述の確認（ノート・ワークシート等） ・行動の観察（授業態度・発表や協議の様子等）	・行動の観察 ・記述の確認	・記述の確認及び分析 （コンクール等の活用）	・記述の確認及び分析 ・定期考査	・記述の確認 ・行動の観察 ・定期考査 ・朝学や小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。					

4　学習の活動

前・後期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元（題材）の評価規準	評価方法
			関	話	書	読	知		
前期	小説（一）	中島敦 「山月記」	○			◎	○	関　文章の特色に注目することで内容の深い理解を目指そうとしている。 読　人物の心情の推移を把握しながら文章を読み取っている。 知　全文を正しく音読できるか。語句の意味・用法を理解し、表現上の特色をとらえている。漢語的な表現や語句の意味についての理解を深めている。	発問・授業時の反応・ノートへの記述の分析・指名読み・小テスト・定期考査
	評論（二）	森田良行 「『私』中心の日本語」	○			◎	○	関　文章を読んで「日本語」のあり方について考えようとしている。 読　文章の内容から，筆者の考えを理解している。 知　主な常用漢字の音訓の正しい使い方を身につけている。	発問・授業時の反応・ノートへの記述の分析・指名読み・小テスト・定期考査
	詩	宮沢賢治 「永訣の朝」	○			◎	○	関　繰り返し音読することで詩の韻律に慣れようとしている。 読　一つ一つの表現に即して，その意味を明らかにしている。 知　詩の表現形式や修辞について，理解している。	発問・授業時の反応・ノートへの記述の分析・指名読み・小テスト・定期考査

		清岡　卓行 「手の変幻」	○			◎	○	関　美術作品や、教材の内容に関心を持っているか。 読　「失われたものが両腕でなければならない」のはなぜかということを正確に読み取っているか。 知　キーワード「逆説」について理解しているか。	発問・授業時の反応・ノートへの記述の分析・指名読み・小テスト・定期考査
	評論（四）	國分　功一郎 「消費社会とは何か」	○			◎	○	関　論点を整理しながら，自分の考えを表現しようとしている。 読　題材や材料，文の組立てに注意しながら，読み取っている。 知　語句の意味や用法の微妙な違いについて，理解を深めている。	発問・授業時の反応・ノートへの記述の分析・指名読み・小テスト・定期考査
	小説（二）	夏目漱石 「こころ」	○	○	○	◎	○	関　表現に即して，人物や情景の描写を味わいながら小説を読もうとしている。 話　文学的な文章を読んで，人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合っている。 書　文学的な文章を読んで，表現の特徴や人物の生き方やその表現の仕方などについて、自分なりの考えをまとめている。 読　情景や会話の描写から，人物の様子について考察しながら読んでいる。 知　作者の思想や作品について，理解を深めている。	発問・授業時の反応・ノートへの記述の分析・指名読み・小テスト・定期考査
後期	評論（五）	村上　陽一郎 「トランス・サイエンスの時代」	○			◎	○	関　論点を整理しながら，自分の考えを表現しようとしている。 読　題材や材料，文の組立てに注意しながら，読み取っている。 知　語句の意味や用法の微妙な違いについて，理解を深めている。	

	詩歌・創作	⑴ 短歌･俳句の仕組みを理解し、味わう ⑵ 「前田純孝賞に応募する」 【詩歌・創作】	○		◎		○	関 短歌を詠むこと・読むことに楽しさや興味を感じようとしているか。 書 有名歌人の歌で表現技巧を知り、自身で効果的に短歌を作成しているか。 知 短歌や俳句の歴史・表現技巧や代表歌人などについて理解しているか。	発問・授業時の反応・ノートへの記述の分析・指名読み・小テスト・定期考査・「前田純孝賞」での創作状況
	評論（六）	内山　節 「連帯という言葉の意味」	○			◎	○	関 筆者の問題意識を把握しながら文章を読もうとしている。 読 文脈を考え，語句や表現に注意しながら文章を読んでいる。 知 文章の要点を押さえながら短くまとめる方法を身につけている。	発問・授業時の反応・ノートへの記述の分析・指名読み・小テスト・定期考査
	小説（三）	太宰　治 「葉桜と魔笛」	○			◎	○	関 文章の特色に注目することで内容の深い理解を目指そうとしている。 読 人物の心情の推移を把握しながら文章を読み取っている。 知 表現や語句の意味についての理解を深めている。	発問・授業時の反応・ノートへの記述の分析・指名読み・小テスト・定期考査

※　表中の観点について　関…関心・意欲・態度　話…話す・聞く能力　書…書く能力

読…読む能力　知…知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。